

年間授業計画

翔陽 高等学校令和 8 年度（1 学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅰ

教 科： 芸術 科 目： 音楽Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

使用教科書： （ 高校生の音楽1（教育芸術社） ）

教科 芸術 の目標：

【知 識 及 び 技 能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わうことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	斉唱『校歌』『翼をください』 『Caro mio ben』 バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身につけ、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う	・ 歌うときの姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方に注意して、音楽表現を工夫して歌唱する ・ 歌詞の内容を深く捉え、曲想との関わりを理解し、曲のもつ雰囲気や味わいを理解して歌唱する ・ 旋律の特徴や言葉の抑揚を理解して、イメージに合った表現を工夫する ・ イタリア語の発音の特徴を理解する ・ イタリア語のアクセントやリズムと旋律との関わりを理解する ・ 歌詞の内容を理解し、表現を工夫して歌う	○			○	【知識及び技能】 ・ 曲想と歌詞との関わりについて理解している ・ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 音色、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに興味をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている	○	○	○	8
	西洋音楽史『中世ルネサンス～バロック時代の音楽』 西洋音楽史の16世紀から18世紀ごろの作品を時代区分鑑賞をする。	・ ルネサンス時代・バロック時代の作曲家について学ぶ。 ・ 作品の特徴を理解して鑑賞する ・ 時代背景と作曲家との関係について理解する。				○	【知識及び技能】 ・ 様々な楽器の音色を知覚し、作曲者の時代背景などを理解しその楽曲の良さを味わいながら鑑賞できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 鑑賞をした時に感じた感想をわかりやすい表現で表すことができる。	○		○	4
	合唱『合唱祭のための基礎練習』 合唱祭に向けて混声合唱曲に取り組むことで、基礎的な唱法を理解する	・ ピアノ伴奏つきの合唱曲に取り組み、伴奏に合わせながら歌う ・ 歌詞の内容を理解して表現を考えながら工夫して歌う	○				【知識及び技能】 ・ 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している ・ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している 【思考力、判断力、表現力等】 曲想や歌詞との関わりを理解してイメージをもって表現している 【学びに向かう力、人間性等】 正しい発声・演奏法・楽譜の読み方などを身に付け、学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている	○	○	○	8
	楽典『楽譜、音名、音符と休符』 音楽を味わうのに必要な要素となる楽譜や音に関する知識を理解する	・ 楽譜のしくみを理解する ・ 英・独・伊・日の音名を理解する ・ 音楽表現記号を理解する ・ 音符や休符といった、音楽を再現するために必要な知識を理解する				○	【知識及び技能】 ・ 音楽を味わうために必要な要素となる知識を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 音楽表現記号が実際の楽譜にどのように生かされているかを分析し、理解している	○	○		8

2 学 期	リズム創作『クラッピン グ カル テット 第1番』	手拍子やボディーパーカッション、 唱歌、打楽器などを用いて音色を工 夫したり、リズムパターンを即興で 変化させたりして、表現を創意工夫 してリズム合奏する	・グループを組み、『クラッピン グカルテット』を演奏できるよう にする ・リズムパターンを躍動感をもっ て表現する ・手拍子やボディーパーカッシ ョン、唱歌、打楽器などを組み合わ せて、リズムパターンを音色豊か に、生き生きと演奏する ・音の素材やリズムを工夫し、 テーマを表現する	○	○	【知識及び技能】 ・曲想と楽器の音色やリズムとの関わりにつ いて理解している ・創意工夫を生かした器楽表現をするために 必要な、他者との調和を意識して演奏する技 能を身に付け、器楽で表している 【思考力、判断力、表現力等】 ・音色、リズム、テクスチャを知覚し、そ れらの働きを感じながら、知覚したことと 感受したこととの関わりについて考え、どの ように演奏するかについて表現意図をもっ ている 【学びに向かう力、人間性等】 ・音色の工夫やリズムパターンの変化と曲想 との関わりに関心をもち、主体的・協働的に 器楽の学習活動に取り組もうとしている	○	○	○	6
	器楽『ギターの基礎奏法』	ギターの構造や奏法などについてつ いて理解するとともに、簡易な楽曲 を通して器楽合奏に親しむ	・ギターの構造や基礎的な奏法を 理解する ・ギターで音階を演奏する ・『木星』などの簡易な楽曲の練 習に取り組む ・完成した作品をグループごとに 発表する	○		【知識及び技能】 ・ギターの基礎的な知識、技能を習得する ・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの 響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特 徴について、表したいイメージと関わらせて 理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・創意工夫を生かした創作表現をするために 必要な、音楽を形づくっている要素の働きを 表現する技能を身に付けている 【学びに向かう力、人間性等】 ・個人や器楽アンサンブルで演奏することに 関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活 動に取り組もうとしている	○	○	○	12
	楽典『拍子、音程』	音楽を味わうのに必要な要素となる 楽譜や音に関する知識を理解する	・拍と拍子の違いを理解する ・音の構造を理解する ・音程の概念を理解する		○	【知識及び技能】 ・音楽を味わうために必要な要素となる知識 を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 ・拍子や音程などが実際の楽譜にどのよう に生かされているかを分析し、理解している	○	○		6
	西洋音楽史『古典派～ロマン派の音 楽』	世界各地の民族音楽に触れ、特徴を 理解し、楽器や背景などとの関わり について理解する	・ルネサンス時代・バロック時代 の作曲家について学ぶ。 ・作品の特徴を理解して鑑賞する ・時代背景と作曲家との関係につ いて理解する。		○	【知識及び技能】 ・様々な楽器の音色を知覚し、作曲者の時代 背景などを理解しその楽曲の良さを味わいなが ら鑑賞できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・鑑賞をした時に感じた感想をわかりやすい 表現で表すことができる。	○		○	4
3 学 期	合唱『アカベラの合唱』	無伴奏の混声合唱曲に取り組むこ とで、ハーモニーの作り方を模索し ながら歌唱する	・無伴奏の合唱曲に取り組み、他 声部の音を聞きながら歌う ・歌詞の内容を理解して表現を考 えながら工夫して歌う ・伴奏有りの合唱曲との違いを味 わう	○		【知識及び技能】 ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり について理解している ・創意工夫を活かした発声・音の出し方を身 に付けている ・正しい音色やリズムなどの知識を身に付け 演奏できている 【思考力、判断力、表現力等】 ・曲想や歌詞との関わりを理解してイメー ジをもって表現している 【学びに向かう力、人間性等】 ・正しい発声・演奏法・楽譜の読み方などを 身に付け、学習活動に主体的・協働的に取 組もうとしている	○	○	○	10
	鑑賞『ミュージカル音楽』	総合芸術としてのミュージカルを音 楽とシナリオの時代背景などとも に、総合的に理解し、鑑賞する	・ミュージカルの本場であるアメ リカのブロードウェイの歴史につ いて理解する ・教科書の『ウエストサイド ストーリー』に関する記事を理解し たうえで鑑賞する		○	【知識及び技能】 ・ブロードウェイミュージカルの文化的・歴 史的背景との関わり、及び様々な表現形態に よる歌唱表現の特徴について理解している 【学びに向かう力、人間性等】 ・ミュージカル音楽に関心をもち、主体的に 鑑賞に取り組もうとしている	○		○	4
合計										
70										

翔陽 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅰ

教 科： 芸術 科 目： 美術Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 美術Ⅰ 光村図書 ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】美術作品、造形物、自然物、生命感や心情、精神的・創造的価値等を認識し、造形的な視点について理解を深めるとともに、表現の意図に応じて材料や用具の特性を生かしたり表現方法を工夫したりするなどして、創造的に表す技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】主題を生成し、創造的に発想し、構想を練り、生涯にわたり価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。また、造形的な良さや美しさ、表現の意図を考え、創意工夫をし、その働きなどについて考えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】主題を生成し、創造的に発想し、構想を練り、生涯にわたり価値意識を持って美術や美術文化、延いては、世界（自然、社会、精神世界）に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。また、造形的な良さや美しさ、表現の意図を考え、創意工夫をし、その働きなどについて考えることができるようにする。

科目 美術Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
美術作品、造形物、自然物、生命感や心情、精神的・創造的価値等を認識し、造形的な視点について理解を深めるとともに、表現の意図に応じて材料や用具の特性を生かしたり表現方法を工夫したりするなどして、創造的に表す技能を身につける。	主題を生成し、創造的に発想し、構想を練り、生涯にわたり価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。また、造形的な良さや美しさ、表現の意図を考え、創意工夫をし、その働きなどについて考えることができるようにする。	主題を生成し、創造的に発想し、構想を練り、生涯にわたり価値意識を持って美術や美術文化、延いては、世界（自然、社会、精神世界）に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。また、造形的な良さや美しさ、表現の意図を考え、創意工夫をし、その働きなどについて考えることができるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【絵画】自画像	内容：自身の顔を見つめ、漫画調になることなく素直に自分自身を描く。丁寧な観察を何より大切に、ていねいなく紙面に表現する。 指導事項：構図、光の捉え方、鉛筆の基本的な使用方法等 教材：鏡（一人1台）、鉛筆、半紙	・ていねいなく自らを見つめ、丁寧な観察から得た情報を自身の心情などを踏まえ積極的に表現しようとする ・鉛筆の特性を生かし、グラデーションによる陰影表現で対象を表現することができる ・対象を丁寧に観察し、形態のバランス、光、量感などを見極め、画面上に表現することができる	○	○	○	8
	【絵画】風景画	内容：自身の周りに広がる風景に興味を持ち、その中で気になる風景を色鉛筆によって描く。狙いにより効果的な構図等を選び、丁寧な観察を大切に、描くことを目指す。 指導事項：構図、光の捉え方、重色技法等 教材：色鉛筆、画用紙	・積極的により良い作品を制作しようとする ・自身の狙いに応じてより良い場所（視点）、構図を選ぶことができる ・観察や自らの感性で感じ取ったものを、使用する画材の特性を生かし、創意工夫しながら表現することができる ・丁寧にでばり強い観察より得られたものを、重色技法を用いて表現できる	○	○	○	6
	定期考査						
	【デザイン】レタリング・絵画技法	内容：次課題のポスター制作に必要な技法等を学ぶ。 指導内容：レタリングの効用、制作方法、絵の具による平塗り、グラデーション等の方法 教材：アクリル絵の具、画用紙、定規	・レタリングの持つ効用を理解し、平塗り技法を用いて美しいレタリングを制作できる ・既存の書体から変形させる際、創意工夫しながら、より意欲を持って制作に臨むことができる ・絵の具によるグラデーション表現など、デザイン技法に興味を持ち、積極的に取り組む	○	○	○	4
	【デザイン】翔陽祭ポスター	内容：ポスターの効用を理解し、翔陽祭（文化祭）用のポスターを制作する。優秀作は学外掲示の可能性があるので、著作権についても留意しながら制作する。 指導内容：デザインの発想方法、絵の具による技法各種等 教材：アクリル絵の具、画用紙、定規、コンパスなど	・ポスターの効用を理解し、自校の特性とポスターという特性を踏まえた上で独自のデザインを考案できる ・絵の具の特性を踏まえた上で効果的な技法を用いて創意工夫をし、制作できる ・積極的に創意工夫をし、より良い作品を制作しようとする	○	○	○	10
	定期考査						

2 学 期	【映像メディア】絵コンテ	内容：映像作品における絵コンテの役割を学び、自身でも絵コンテを制作する。ストーリーの考案、カメラワーク等を意識しながら制作する。 指導内容：絵コンテについての説明 教材：プリント、画用紙、色鉛筆	・映像作品における絵コンテの役割を理解し、自らも積極的に他者により良く伝達できる絵コンテを描くことができる ・映像作品になることをイメージしながら創意工夫をし、起承転結を考え、独自の作品を考えることができる	○	○	○	2
	【映像メディア】コマ撮りアニメ	内容：映像作品制作における構成を学び、自作のコマ撮りアニメ制作を行う。ストーリーの考案、カメラワーク、撮影テクニックの考案等を意識しながら制作する。 指導内容：映像テクニック、鑑賞者の視点に立った構成について説明 教材：プリント、画用紙、色鉛筆等（一人1台端末の活用）	・映像作品の完成をイメージしながら創意工夫をし、起承転結を考え、独自の作品を考えることができる ・どのようなカメラワーク、素材の扱いで、自身のイメージを具現化出来るのか、創意工夫を凝らし、考えることが出来る ・自身の映像作品を制作するプロセスで、他者により良く伝達する試行錯誤を経て、他者の視点を考えることが出来る	○	○	○	5
	定期考査						
	【彫刻】寄木細工	内容：日本の伝統技法である寄木細工のデザイン性、組み立ての特性を生かしながら、立体作品制作を行う。 指導内容：立体デザイン法、木工技法 教材：寄木細工用木材、木工用バンド、木材加工道具各種	・日本の伝統技法である寄木細工の特性を理解し、自ら積極的に立体的デザインを考案するすることができる ・木材加工用の様々な道具の扱いを習得している ・自身のデザインした作品を完成させるために、どのような段取りが必要か、先を見通す計画性を持つことが出来る	○	○	○	13
3 学 期	【絵画】デッサン（グラデーション課題を含む）	内容：次の課題である日本画に先立って、テーマに沿って自身で選んだモチーフを描く。1年間学習した成果を踏まえ、心を込めて描くことを旨とする。 指導内容：箔張り技術、水彩画技法等 教材：日本画ボード、金箔、アクリル絵の具等	・鉛筆によるグラデーションを制作し、その濃淡をデッサンに生かすことが出来る ・自身で選んだモチーフから観察や自らの感性で感じ取ったものを、使用する画材の特性を生かし、創意工夫しながら表現することができる ・積極的により良い作品を制作しようとする	○	○	○	8
	定期考査						
	【絵画】日本画	内容：日本画の伝統技法である箔張りの技術を学び、テーマに沿って自身で選んだモチーフを描く。1年間学習した成果を踏まえ、心を込めて描くことを旨とする。 指導内容：箔張り技術、水彩画技法等 教材：日本画ボード、金箔、アクリル絵の具等	・箔張りの技術を理解し、自らもそれを行うことができる ・自身で選んだモチーフから観察や自らの感性で感じ取ったものを、使用する画材の特性を生かし、創意工夫しながら表現することができる ・積極的により良い作品を制作しようとする	○	○	○	14
	定期考査						
							合計
							70

年間授業計画

翔陽 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 芸術 科目 工芸 I

教 科： 芸術 科 目： 工芸 I 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 工芸 I 日本文教出版 ）

教科 芸術 の目標：

【知 識 及 び 技 能】対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

科目 工芸 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	金属を使った透かし彫り 【知識及び技能】 道具の使い方や透かし彫り絵の図案化を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 表したい図案を簡略化して表現する 【学びに向かう力、人間性等】 自分らしい表現方法を探す	・指導事項 （ア）心豊かな発想 身近な美しい事象を表現する （イ）制作の構想 透かし彫りのデザインとして図案化 ・教材 エスキス帳 ケント紙	（ア）心豊かな発想 身近な美しい事象を表現できているか （イ）制作の構想 透かし彫りのデザインとして図案化が適切に表現できているか	○	○	○	8
	金属を使った透かし彫り 【知識及び技能】 糸鋸などの道具を使い方や透かし彫り技法を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 表したい図案を金属で表現する 【学びに向かう力、人間性等】 図案通り金属に表現していく	・指導事項 （ア）素材を活かした表現方法を身に着ける （イ）創造したアイデアを具現化させる ・教材 真鍮板 糸鋸など	（ア）素材を活かした表現方法ができているか （イ）創造したアイデアを具現化できているか	○	○	○	6
	定期考査						0
	金属を使った透かし彫り 【知識及び技能】 糸鋸などの道具を使い方や透かし彫り技法を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 表したい図案を金属で表現する 【学びに向かう力、人間性等】 図案通り金属に表現していく	・指導事項 （ア）素材を活かした表現方法を身に着ける （イ）創造したアイデアを具現化させる ・教材 真鍮板 糸鋸など	（ア）素材を活かした表現方法ができているか （イ）創造したアイデアを具現化できているか	○	○	○	10
	金属を使った透かし彫り 【知識及び技能】 糸鋸などの道具を使い方や透かし彫り技法を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 表したい図案を金属で表現する 【学びに向かう力、人間性等】 図案通り金属に表現していく	・指導事項 （ア）素材を活かした表現方法を身に着ける （イ）創造したアイデアを具現化させる ・教材 真鍮板 糸鋸など	（ア）素材を活かした表現方法ができているか （イ）創造したアイデアを具現化できているか				4
	定期考査						0

2 学 期	木製の箱の表面装飾 【知識及び技能】 電動糸鋸や彫刻刀の使い方 【思考力、判断力、表現力等】 木材を使った箱の制作、彫刻と使った装飾 【学びに向かう力、人間性等】 使う人の気持ちを考え制作することを学ぶ	・指導事項 (ア) 素材を活かした表現方法を身に着ける (イ) 創造したアイデアを具現化させる ・教材 彫刻刀 電動糸鋸など	(ア) 素材を活かした表現方法ができているか (イ) 創造したアイデアを具現化できているか	○	○	○	6
	木製の箱の表面装飾 【知識及び技能】 電動糸鋸や彫刻刀の使い方 【思考力、判断力、表現力等】 木材を使った箱の制作、彫刻と使った装飾 【学びに向かう力、人間性等】 使う人の気持ちを考え制作することを学ぶ	・指導事項 (ア) 素材を活かした表現方法を身に着ける (イ) 創造したアイデアを具現化させる ・教材 彫刻刀 電動糸鋸など	(ア) 素材を活かした表現方法ができているか (イ) 創造したアイデアを具現化できているか				8
	定期考査						0
	二色の練り込みマグカップ（陶芸） 【知識及び技能】 陶芸粘土の焼成温度や制作過程を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 モザイク模様による図案を制作する 【学びに向かう力、人間性等】 使う人の気持ちを考え制作することを学ぶ	・指導事項 (ア) 素材を活かした表現方法を身に着ける (イ) 創造したアイデアを具現化させる ・教材 陶芸粘土	(ア) 素材を活かした表現方法ができているか (イ) 創造したアイデアを具現化できているか	○	○	○	8
	二色の練り込みマグカップ（陶芸） 【知識及び技能】 陶芸粘土の焼成温度や制作過程を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 モザイク模様による図案を制作する 【学びに向かう力、人間性等】 使う人の気持ちを考え制作することを学ぶ	・指導事項 (ア) 素材を活かした表現方法を身に着ける (イ) 創造したアイデアを具現化させる ・教材 陶芸粘土	(ア) 素材を活かした表現方法ができているか (イ) 創造したアイデアを具現化できているか				6
	定期考査						0
3 学 期	二色の練り込みマグカップ（陶芸） 【知識及び技能】 陶芸粘土の焼成温度や制作過程を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 モザイク模様による図案を制作する 【学びに向かう力、人間性等】 使う人の気持ちを考え制作することを学ぶ	・指導事項 (ア) 素材を活かした表現方法を身に着ける (イ) 創造したアイデアを具現化させる ・教材 陶芸粘土	(ア) 素材を活かした表現方法ができているか (イ) 創造したアイデアを具現化できているか	○	○	○	10
	(1) 鑑賞 工芸の伝統と文化を学び、生活や社会を心豊かにするために日本の伝統工芸品を地域ごとに学ぶ	ア 工芸作品などに関する鑑賞 素材別に工芸品を学ぶ イ 工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する鑑賞	ア 工芸作品などに関する鑑賞 素材別に工芸品を司会で見たか イ 工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する事柄に興味を持てたか	○	○	○	4
	定期考査						0
							合計
							70

年間授業計画

翔陽 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅰ

教科：芸術 科目：書道Ⅰ 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～6組

使用教科書：（新編 書道Ⅰ（大修館書店））

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

科目 書道Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の幅広い表現や鑑賞の活動を通して、習得されたり活用されたりする知識と効果的に表現するための技能を身に付ける。	作品の構想と表現の工夫、鑑賞における思考、判断を身に付ける。	主体的に学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好する心情を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 書写から書道へ 【知識及び技能】 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について理解するを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む。	・指導事項 書写で学んできたこと。用具・用材の使用。 ・教材 教科書 書道道具	【知識及び技能】 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について理解している。 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	B 漢字の書 楷書 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 楷書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む。	・指導事項 古典に基づく学習。楷書の特徴 表現。 「拓本」 「九成宮醴泉銘」 ・教材 教科書 書道道具	【知識及び技能】 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫出来る。 【学びに向かう力、人間性等】 楷書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	定期考査						0
	C 漢字の書 楷書 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 楷書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む。	・指導事項 古典に基づく学習。楷書の特徴 表現。 「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」 ・教材 教科書 書道道具	【知識及び技能】 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫出来る。 【学びに向かう力、人間性等】 楷書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	D 創作 表現の使い分け 【知識及び技能】 学習した表現技法を理解し組み合わせる。表現の組み合わせで様々な表現の幅が広がることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 意図に基づく表現を意識する。用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む。	・指導事項 古典を生かそう。書の美や風趣を味わおう。 ・教材 教科書 書道道具	【知識及び技能】 楷書の古典の表現技法を理解出来ている。文字における表現技法の効果について理解出来ている。 【思考力、判断力、表現力等】 意図に基づく表現を意識する。用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫出来る。 【学びに向かう力、人間性等】 自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	定期考査						0
	E 漢字の書 行書 【知識及び技能】 行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解できる。行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 行書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む。行書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組む。	・指導事項 行書の特徴 「蘭亭序」 「争坐位文稿」 「風信帖」 ・教材 教科書 書道道具	【知識及び技能】 行書の古典の表現技法を理解出来ている。文字における表現技法の効果について理解出来ている。 【思考力、判断力、表現力等】 意図に基づく表現を意識する。用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫出来る。 【学びに向かう力、人間性等】 自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	定期考査						0

年間授業計画

翔陽 高等学校令和 8 年度(2, 3学年用) 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 音楽Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2・3 学年 選択者

使用教科書：（ 高校生の音楽 2（教育芸術社） ）

教科 芸術 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想・音楽の構造・歌詞等を理解して発展的な表現が出来、曲にふさわしい演奏の技能を身に付ける。	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、感受しながら発展的な表現に創意工夫をすることが出来る力を身に付ける。	積極的に音を出し、主体的な鑑賞に取り組もうとしている姿勢を身に付ける。他者の音を積極的に感じる態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	合唱『ホールニューワールド』 『サッカーによせて』 『いざ起て戦人よ』 比較的歌いやすい合唱曲を中心に練習をしてアカペラの独特の演奏感覚に親しむ。	・歌うときの姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方に注意して、音楽表現を工夫して歌唱する。 ・歌詞の内容を深く捉え、曲想との関わりを理解し、曲のもつ雰囲気や味わいを理解して歌唱する。 ・無伴奏ならではのハーモニーの取り方や周囲の音の聴き方を工夫する。 ・英語の歌詞の発音や特徴を理解する。	○			○	【知識及び技能】 ・創意工夫を生かした発声・歌唱表現をす身に付けている。正しいリズムや豊かな音色などを理解して演奏できている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・曲想やメロディーと歌詞との関わりを自ら考え表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・正しい発声を身に付けて、学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	総合芸術 『オペラ・ミュージカルの音楽』 総合芸術としてのオペラとミュージカルの歴史や作品を比較しながら鑑賞をする。	・『魔笛』（モーツァルト）の一部分を鑑賞し、夜の女王のアリアについて楽譜を見ながら鑑賞する。 ・イギリスのウエストエンドミュージカルの歴史を理解する。				○	【知識及び技能】 ・オペラとミュージカルのそれぞれの特徴や、違いなどを理解し、それぞれの良さを味わいながら鑑賞できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・鑑賞をした時に感じた感想を、得た知識と結び付けて表現することができる。	○		○	6
	ボディーパーカッション 『クラッピングカルテット第2番』 リズムを楽譜から読み取り、耳からではなく、目で音をイメージして読み解くことを理解する。	・教科書の楽譜を一通り目を通して、音をイメージした後に、演奏をする。 ・他者とのアンサンブルを楽しむ、協働して上達を目指していく。				○	【知識及び技能】 ・音符の長さや拍の取り方を理解している。 ・曲にふさわしいクラップの音を出す技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 楽譜に書かれている強弱記号を理解してイメージをもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 楽譜を主体的に読み、演奏に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	楽典『音程』 音楽を味わうのに必要な要素となる楽譜や音に関する知識を理解する。	・音程の幅と響きの違いを聴いて確認する。 ・鍵盤の模式図を用いて、音程の幅を計測する。				○	【知識及び技能】 ・音楽を味わうために必要な要素となる知識を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 ・音程が実際の演奏にどのように生かされているかを分析し、理解している	○	○		6

2 学 期	器楽『キーボード・ハーモニー』	・教科書に記載されている『糸』を右手でメロディーを演奏する。 ・『糸』のコードネームを読み、左手で伴奏を作る。 ・伴奏を工夫して創作する。	○	○	【知識及び技能】 ・右手で途中で止まることなく、メロディーを演奏することができる。 ・コードネームの仕組みを理解し、キーボードで演奏することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・楽曲のイメージにふさわしい伴奏を、音型を工夫して創作できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・両手で演奏できる程度のテンが設定を自ら行い、積極的に練習に取り組むことができる。	○	○	○	12	
	器楽『三線と沖縄の音楽』	・『工工四』を暗記して縦譜を読む。 ・『涙そうそう』を三線だけで演奏する。 ・三線の演奏に慣れてきたら、弾き歌いで演奏する。	○	○	【知識及び技能】 ・三線の基礎的な知識、技能を習得する。 ・工工四を暗記し、縦譜の楽譜を読むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・楽曲のもつイメージを考えながら、音楽を形づくっている要素の働きを表現する技能を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・沖縄の音楽や楽器に関心をもち、主体的に弾き歌いの学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10	
	楽典『長音階・短音階・様々な音階』	・長調と短調の音階や音の響きの違いを感じ取る。 ・それぞれの調の音階の幅を理解する。 ・日本音階など、特徴的な調を理解する。	○		【知識及び技能】 ・音楽を味わうために必要な要素となる知識を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音階や調などが実際の楽譜にどのように生かされているかを分析し、理解している。	○	○		4	
	鑑賞『時代を超えて鳴り響く「怒りの日」』	・ルネサンス時代～ロマン派までの「怒りの日」を鑑賞し、その特徴を理解する。 ・「怒りの日」に共通するテーマや旋律を理解する。 ・それぞれの時代や作曲家による楽曲の違いを感じ取る。	○		【知識及び技能】 ・オーケストラの様々な楽器の音色を知覚し、作曲家の時代背景などに違いや、時代を超えて共通するテーマなどを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・鑑賞をした時に感じた感想をわかりやすい表現で表すことができる。	○		○	2	
3 学 期	『総合的な音楽活動』	・楽曲は自由曲とするが、事前に演奏可能かどうかを教員と確認する。 ・楽器が苦手な生徒は歌唱でも構わない。	○	○	○	【知識及び技能】 ・楽器の特性やそれを演奏するための楽譜の読み方を理解している。 ・曲にふさわしい音色を出すための技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 楽譜に書かれている内容を読み解き、理解してイメージをもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の演奏を主体的に、敬意をもって鑑賞する態度を身に付けている。	○	○	○	14
合計										70

翔陽 高等学校 令和 8 年度（2, 3 学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 美術Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書： （ 美術Ⅱ 光村図書 ）

教科 芸術 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 美術Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	オリエンテーション	美術2の授業内容と評価の基準などについて理解する。美術を学ぶ意味について理解する。	・授業内容や成績について理解できたか ・美術を学ぶ意味について理解出来たか	○		○	1
	【絵画・彫刻】石膏デッサン	内容：「美の規範」と言われる、ギリシャ・ローマ彫刻の傑作を型取りした石膏像を描くことにより、デッサンの造形的な基本概念を理解すると同時に、古典彫刻から美の根幹を学ぶ。丁寧な観察を大切に、鉛筆で表現する。 指導事項：「構図」「形」「稜線」「明暗」などの理解、デッサンの制作プロセスの理解、鉛筆の使用方法等。 教材：石膏像、鉛筆、画用紙、イーゼル、画板、目玉クリップ	・「構図」「形」「稜線」「明暗」などのデッサンの造形的基本的概念を理解している ・デッサンの制作プロセスを正しく理解し、制作している ・鉛筆の特性を生かし、対象の明暗に沿った階調表現を行い、立体感を表現することができる ・対象を丁寧に観察し、形態や明暗のバランスを見極める努力をし、粘り強く取り組むことができる	○	○	○	6
	定期考査						0
	【絵画・彫刻】切り絵のイラストレーション	内容：主に明暗を基準に白黒二階調分けた下絵を作成、黒い紙に固定し、白い部分を切り抜いて絵を仕上げていく。型染めなどの日本の伝統文化の技術や、世界各地の切り紙文化の歴史から学ぶことで、美術文化について考え、見方や感じ方を深める。 指導事項：制作手順の理解。切り絵表現の伝統や技法の理解。カッターナイフなどの用具を正しく安全に扱う方法を身につける。 教材：黒画用紙、ケント紙、デザインカッターナイフ、カッターマット、ノリ、トレーシングペーパーなど。	・下絵のイメージを形にする想像力を養い、積極的に創意工夫しようとする ・白黒の対比からポジ・ネガの概念を理解し、全体のバランスを考えることができる ・長時間ひとつの作業に集中することができる	○	○	○	14
	【デザイン】トーンの学習 明度と彩度を合わせた概念である「トーン」を学習	内容：色彩学の基礎を学習し、与えられたワークシートを用いて絵の具でトーン分類表を制作し、明度と彩度を合わせた概念である「トーン」を学習する 指導事項：色彩の三要素である「明度」「彩度」「色相」の理解、トーン概念。アルキド絵の具の使用方法的理解 教材：ケント紙に印刷されたワークシート、アルキド絵の具	・色彩の基礎が理解できている ・混色がきちんと丁寧にできている ・積極的に丁寧に仕上げようとする態度がある	○	○	○	7
	定期考査						0

2 学 期	【鑑賞】作品鑑賞会と西洋美術史1	内容：1学期に制作した作品を並べて鑑賞し、感想や意見を述べる。教科書や資料を使用し、西洋美術史の概説を講義する。 指導事項：制作している時とは違う視点で作品鑑賞をおこなうことで、様々な気付きの機会とする。美術史の講義では、歴史的に重要なポイントを理解できるようにする。 教材：ワークシート、筆記用具、教科書	・造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めることができる ・作品を主體的に鑑賞し、味合うことができる ・西洋美術史のポイントを理解できる	○	○	2
	【デザイン】ポストリゼーション 明度段階を制限した絵画作品の制作を行う	内容：トーンの学習で学んだことを基に、明度段階を制限した絵画を制作する。 指導事項：決められた明度段階の数、色相の数を守り、混色を工夫する。色彩における明度の重要性の理解 教材：ケント紙、トレーシングペーパー、鉛筆、アルキド絵の具	・形を明度段階で分割することができる ・色彩を明度に置き換えて考えることができる ・明度段階や純色の数を決められたルール通りにしている ・色の三属性が理解できている ・積極的に丁寧に仕上げようとする態度がある	○	○	8
	定期考査					0
	【絵画・彫刻】銅板レリーフ	内容：浮き彫りの立体感を意識し、平面の下絵制作から半立体のレリーフ表現を行う。 指導事項：半立体表現に適した題材選択。銅板の特性を理解し、素材や用具を適切に扱うこと。装飾の技法や歴史を理解し作品制作に活かす 教材：ヘラ押し銅板レリーフセット、ボールペン、下敷用マット、接着剤など	・材料や用具の特性を生かすとともに、立体であらわす表現の方法を工夫することができる ・彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えることができる ・主體的にテーマやモチーフを探し、積極的に表現に取り組む姿勢がみられる	○	○	10
3 学 期	【絵画・彫刻】自由制作1 美術1、美術2の学習を活かし、自由制作を行う。	内容：アイデアスケッチから、モチーフや構図等に注意し、制作を通して自身の考えやアイデアを表現することができるようにする。 指導事項：材料、モチーフ、表現手法などを十分吟味し、提出期限のあることを加味して制作をするように注意する 教材：鉛筆、紙以外の画材は個人で用意する	・材料の性質や技法を活用し、よく理解した上で、自分の意図に合わせた制作をすることができる ・立体作品、平面作品にかかわらず、それぞれの特質を十分に考慮しながら表現ができている ・制作過程の中で、効率的なやり方の判断や美しく仕上げるために試行錯誤することができる ・他者の作品から、技法の表現の特異性やおもしろさを発見することができる	○	○	8
	定期考査					0
	【鑑賞】作品鑑賞会と西洋美術史2	内容：2学期に制作した作品を並べて鑑賞し、感想や意見を述べる。教科書や資料を使用し、西洋美術史の概説を講義する。 指導事項：制作している時とは違う視点で作品鑑賞をおこなうことで、様々な気付きの機会とする。美術史の講義では、歴史的に重要なポイントを理解できるようにする。 教材：ワークシート、筆記用具、教科書	・造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めることができる ・作品を主體的に鑑賞し、味合うことができる ・西洋美術史のポイントを理解できる	○	○	4
	【絵画・彫刻】自由制作2 2学期の自由制作の続きをおこなう	内容：2学期から始めた自主的な制作の続きをおこなう。2学期末で仕上がった者は2作目を新たに制作する。 指導事項：材料、モチーフ、表現手法などを十分吟味し、提出期限のあることを加味して制作をするように注意する 教材：鉛筆、紙以外の画材は個人で用意する	・材料の性質や技法を活用し、よく理解した上で、自分の意図に合わせた制作をすることができる ・立体作品、平面作品にかかわらず、それぞれの特質を十分に考慮しながら表現ができている ・制作過程の中で、効率的なやり方の判断や美しく仕上げるために試行錯誤することができる ・他者の作品から、技法の表現の特異性やおもしろさを発見することができる	○	○	10
	定期考査					0
						合計
						70

翔陽 高等学校 令和8年度（2,3学年用） 教科芸術 科目 工芸Ⅱ

教科 科： 芸術 科 目： 工芸Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2,3 学年 1 組～ 6 組 選択者 中村

使用教科書： （ 工芸Ⅱ 日文 ）

教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】対象の事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表せるようにする。
- 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】

科目 工芸Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象の事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表せるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	洋白のスプーン制作 【知識及び技能】 道具の働きと素材の特性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や価値意識からデザインを構想し、技法を活かして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材や技法に親しみ、主体的、意欲的に取り組む。	表現力 (ア)目的や価値意識持ってスプーンの図案を完成させる。 知識・技能 (イ)糸ノコギリで図案を洋白板から切り抜く 教材 糸ノコギリ、エスキース帳、洋白板	(ア)目的や価値意識を持って、制作に取り組んでいるか (イ)道具を適切に使用し、素材を加工できているか	○		○	7
	洋白のスプーン制作 【知識及び技能】 道具、素材の特性を理解し、製作をしている。 【思考力、判断力、表現力等】 道具、素材の特性を活かし、丁寧に仕上げを行う。 【学びに向かう力、人間性等】 素材や技法に親しみ、主体的、意欲的に取り組む。	知識・技能、表現力 (ア)糸ノコギリで切り抜いた図案を棒ヤスリで整える。 知識・技能、表現力 (イ)紙やすりを段階的に用いて表面を仕上げる。 教材 棒ヤスリ、紙やすり、耐水ペーパー	(ア)(イ) 道具、素材の特性を理解して制作に取り組んでいるか/道具、素材の特性を活かして丁寧に仕上げを行っているか	○	○	○	7
	定期考査						0
	張り子細工の制作 【知識及び技能】 素材の特性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や価値意識を持ち、素材の特性や技法を活かして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材や技法に親しみ、主体的、意欲的に取り組む。	表現力 (ア)粘土で原型を制作する。 知識・技能 (イ)紙を張り重ねていく。 教材 粘土、半紙、障子紙、新聞紙、糊、ボンド	(ア)目的や価値意識を持って制作に取り組んでいるか (イ)素材の特性を理解し、それを活かして加工できているか	○	○	○	7
	張り子細工の制作 【知識及び技能】 素材の特性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や価値意識に合わせて素材の特性や技法を活かして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材や技法に親しみ、主体的、意欲的に取り組む。	表現力 (ア)原型を取り出し、張り合わせる。 彩色を施す。 教材 カッターナイフ、塗料、接着剤	(ア)目的や価値意識に合わせて、素材の特性や技法を活かしながら表現できているか		○	○	7
	定期考査						0

2 学 期	手びねりによる陶器の制作 【知識及び技能】 素材の特性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や価値意識に合わせて、技法を活かして創意工夫を凝らして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 素材や技法に親しみ、主体的、意欲的に取り組む	表現力 (ア)用途や価値意識をもとにデザインを構想する。 知識・技能 (イ)手びねりの技法を使い作品を制作する。 教材 陶土、手回しろくろ	(ア)目的や価値意識を持って、制作に取り組んでいるか (イ)素材の特性を理解し、技法を活かしながら加工できているか	○	○	○	7
	手びねりによる陶器の制作 【知識及び技能】 道具の働きと素材の特性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 道具、素材の特性を活かして、丁寧な仕上げを行う。 【学びに向かう力、人間性等】 素材や技法に親しみ主体的、意欲的に取り組む。	知識・技能、表現力 (ア)高台を削り出す。 (イ)素焼きを施し、施釉し、焼成する。 教材 削りカンナ、釉薬	(ア)(イ)道具、素材の特性を理解して制作に取り組んでいるか/道具、素材の特性を活かして丁寧に仕上げを行えているか	○	○	○	7
	定期考査						0
	電動ろくろによる陶器の制作 【知識及び技能】 道具の働きと、素材の特性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 道具、素材の特性を活かして創意工夫を凝らして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 技法や素材に親しみ親しみ主体的、意欲的に取り組む。	知識・技能、表現方法 (ア)菊練りを行い、電動ロクロを用いて作品を制作する。 教材 粘土、電動ろくろ	(ア)道具、素材の特性を理解して制作に取り組んでいるか/目的や価値意識を持って制作に取り組んでいるか	○	○	○	7
3 学 期	電動ろくろによる陶器の制作 【知識及び技能】 道具の働きと素材の特性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 道具、素材の特性を活かして丁寧に仕上げを行う。 【学びに向かう力、人間性等】 技法や素材に親しみ主体的、意欲的に取り組む。	知識・技能 (ア)高台を削り出す。 知識・技能、表現方法 (イ)素焼きを施し、施釉し、焼成する。 教材 削りカンナ、釉薬	(ア)道具、素材の特性を理解して制作に取り組んでいるか (イ)道具、素材の特性を理解して制作に取り組んでいるか/目的や価値意識を持って制作に取り組んでいるか/丁寧に仕上げを行えているか	○	○	○	7
	定期考査						0
	手びねりによる置物の制作 【知識及び技能】 道具の働きと、使い方によって表現の差が生まれることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や価値意識を持ち、創意工夫を凝らして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 道具や素材に親しみ主体的、意欲的に取り組む。	表現方法 (ア)価値意識をもとに置物のデザインを構想する。 知識・技能 (イ)彫塑ペラを用いて作品を造形する。 教材 陶土、彫塑ペラ、エスキース帳	(ア)目的や価値意識を持って、制作に取り組んでいるか (イ)道具の働きと使い方によって表現の差が生まれることを理解して制作に取り組んでいるか	○	○	○	7
	手びねりによる置物の制作 【知識及び技能】 素材、技法の特性を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 道具、素材の特性を活かして丁寧に仕上げを行う。 【学びに向かう力、人間性等】 道具や素材に親しみ主体的、意欲的に取り組む。	知識・技能 (ア)作品の中身をくり抜き、焼成する。 知識・技能、表現方法 (イ)施釉または彩色を行う。 施釉を行う場合は焼成を行う。 教材 切り糸、削りカンナ、塗料、釉薬	(ア)道具、素材の特性を理解して制作に取り組んでいるか (イ)道具、素材の特性を理解して制作に取り組んでいるか/目的や価値意識を持って制作に取り組んでいるか/丁寧に仕上げを行えているか	○	○	○	7
	定期考査						0
							合計
							70

翔陽 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 芸術 科目 器楽

单位数： 2 单位

使用教科書：（なし（学校内にて教授資料作成））

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	「クラシックギターの基礎」 ギターの構造に興味を持ち、音階と タブの関係を理解する。	・ギターの構造を理解し、タブの 場所をを適切な強さで押さえて演 奏する ・五線譜とタブ譜の読み方を理解 する ・音階をテンポが変わることなく 演奏する		○		○	【知識及び技能】 ・タブの位置を目で確認しなくても演奏でき ている。 ・音階を最低音から高音のGまでを止まること なく演奏することができている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自らが出している音を良く聴き、響きのあ る音を確認することができている。	○			6
	「ギターの独奏」 クラシックギターの簡易な楽曲を独 奏し、演奏する楽しさを甘受しつ つ、演奏法を理解していく。	練習曲 ・『喜びの歌』 ・『大きな古時計』 ・『ちょうちょう』 ・『木星』			○	○	【知識及び技能】 ギターのタブ譜を理解して演奏できる。 【思考力、判断力、表現力等】 適切な表現を感じ、実践しようと創意工夫 をしている。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよく響き雑音のない音を目指して音作り に邁進している。	○	○	○	8
	「ギターアンサンブル」 ・他者と異なる楽譜を演奏し、それ がハーモニーとして交じり合う感覚 を養う。 ・自分の出した音と他人の音とを良 く聴き、アンサンブルを組み立て る。	・『カノン』 ・「コードの練習」			○	○	【知識及び技能】 コードをクラシックギターで演奏できる。 【思考力、判断力、表現力等】 適切な表現を感じ、実践しようと創意工夫 をしている。 【学びに向かう力、人間性等】 共感を持って他者の出す音を聴いてアンサン ブルすることができる。	○	○	○	14
2 学 期	「三線の基礎」 ・沖縄県の伝統楽器でもある三線の 歴史と基礎を学び、わが国独自の音 楽と芸能を知る。	・『工工四』を暗記する ・『ガリガリ君』 ・『ちょうちょう』 ・『はとぼっぼ』			○	○	【知識及び技能】 三線の構造を理解し、工工四を覚えて演奏で きる。 【思考力、判断力、表現力等】 沖縄伝統の楽譜を読み、自らの考えで表現す ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよく響き雑音のない音を目指して音作り に邁進している。	○	○	○	6
	「三線の独奏」 ・ポピュラーな音楽から、伝統音楽 までを演奏して三線の良さ、沖縄の 音楽の良さを味わう。 ・弾き歌いに取り組み、その演奏の しやすさから、三線の本来の用途に 気づく。	・『島唄』 ・『涙そうそう』 ・『安里屋ユンタ』		○	○	○	【知識及び技能】 手元を見ずに、歌と楽譜に集中した演奏がで きるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 より複雑な沖縄伝統の楽譜を読み、自らの考 えで表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよく響き雑音のない音を目指して音作り に邁進している。	○	○	○	22
3 学 期	個別及びグループ活動	・自由曲を各自で選択			○		【知識及び技能】 ・楽器の特性やそれを演奏するための楽譜の 読み方を理解している。 ・曲にふさわしい音色を出すための技能を身 に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 楽譜に書かれている内容を読み解き、理解し てイメージをもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の演奏を主体的に、敬意をもって鑑賞す る態度を身に付けている。				14
											合計
											70